

第I部 清朝在外公館の設立

第1章 清朝による常駐使節の派遣……………14

はじめに 14

一 バーリンゲーム使節団の派遣 16

二 海防論議と使節派遣 22

三 初期の常駐使節と李鴻章 28

小 結 38

第2章 清朝による領事館の設立とその特徴……………41

はじめに 41

一 西洋領事の駐在と清朝の領事観 43

二 対日関係と領事の派遣 46

三 華工問題と清朝の対応 48

四 南洋への領事派遣議論 58

小 結 69

第II部 一八八〇年代以降における中国外交の変化

第3章 在外華人保護の動きとその限界……………74

——駐米公使・張蔭桓の移民問題に関する対米交渉を例として——

はじめに 74

一 ロックスプリングス事件の発生と清朝による「自禁政策」の提唱 76

二 条約締結交渉 87

三 張蔭桓の在外活動と清末外交 98

小 結 102

第4章 清朝外交のイメージの形成……………104

——清英「ビルマ・チベット協定」(一八八六年)を例として——

はじめに 104

一 清朝側の対応 107

二 英国側の思惑 111

三 李鴻章・オコナー会談 116

四 「ビルマ・チベット協定」調印 119

小 結 123

第5章

「遠略に勤めざるの誤りを論ず」……

——薛福成による新しい清朝外交の追求——

はじめに 126

一 滇緬界務交渉 128

二 薛福成の外交方針とその意味 142

小 結 153

第Ⅲ部 「外交官」の誕生とその特徴

第6章

在外公館における外交人材の養成……

——日清戦争までを中心に——

はじめに 161

一 洋務と在外公館 163

二 初期の在外公館 166

三 清仏戦争後の変化 180

小 結 190

第7章

外交制度改革と在外公館……

——日露戦争後の人事制度改革を中心として——

はじめに 192

一 二つの視点 194

二 外務部の組織と人事制度 197

三 日露戦争後の人事制度改革（一九〇六～〇七年） 204

小 結 215

第8章

「外交官」たちの国際認識……

はじめに 218

一 英露対立と清朝——錢恂の対外関係研究 221

二 職業外交官の必要性和その養成方法——吳宗濂の意見書 227

三 人材登用の新しい動き——孫宝琦の果たした役割 232

四 「外交官」たちの対外認識——日露戦争後の国際情勢への対応をめぐって 240

五 「経世家」と「外交官」 243

小 結 251

補論 領事館の増設とその意味

——陸徴祥によるオランダとの領事館設立交渉を中心に——

はじめに 255

一 蘭印領事館設置交渉（一九〇八～一九一一年）の発端 258

二 蘭印華人の国籍問題と「大清国籍条例」の制定 261

三 領事館設置交渉と陸徴祥の方針 265

小 結 271

結 論

注 281

あとがき 347

参考文献 卷末 9

索引 卷末 1